

ハイなシニアが勢ぞろい!



川越寿限無のユニフォームはありません。県予選は川越アンセルのユニフォームで出場しました
写真は県予選終了直後、関東大会出場の認定書を手にしています

川越^{じゅげむ}寿限無は、市内で唯一の「ハイシニア」のソフトボールチーム。ハイシニアとは、六十八歳以上で構成されるチームのことをいいます。このチームは、気持ちも体も「ハイ（元気）」な集団です。

じゅげむ①……寿限無とは?

平成十五年七月に創立した川越寿限無。落語の「じゅげむ」から名付けられたチーム名には、長い名前にあやかかって長い命を、という願いが込められています。選手はほとんどが同七年に創立した六十歳以上のソフトボールチーム「川越アンセル」の出身者です。選手全員、ソフトボールの経験年数は二十年以上。ちなみにチームの最高齢は、七十三歳です。

じゅげむ②……体が資本!

ソフトボールを楽しむために、体調管理は欠かせません。練習のない日でもトレーニング



を欠かさな

いという方

も。ソフト

ボールのお

かげで健康

な体を維持

できるだけ

でなく、同

年代の仲間

も増えたそ

うです。

練習は毎週日曜日、午前九時

から正午までの三時間行われま

す。初めはゆっくりとした動き

で、軽いランニングとストレッチ

チ。そのあと、キャッチボール

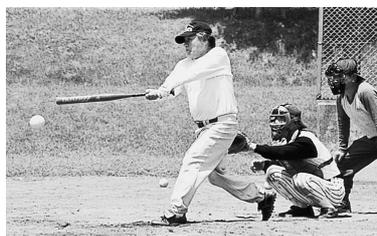
からノックへと練習は進みま

す。練習が進むにつれ、皆さん

の動きが年齢を感じさせないは

つらつとしたものになってい

きました。



練習試合が行われました。長年の経験からか、「ここぞ」という場面では集中力を発揮。ほとんどミスはありません。そして、時には笑い声がわき起こりま

じゅげむ④……楽しむこと

す。本気でやりながらも、ソフト

ボールを楽しんでいる様子。

この日は五回までの練習試合を

二度行いました。二試合とも川

越寿限無の打線が好調で、序盤

で作ったリードを川越アンセル

が追いかけるという展開になり

ましたが、最後は川越寿限無が

逃げ切りました。

四月二十三日に県内十四チー

ムが参加し、トーナメント方式

で争われた「第五回関東ハイシ

ニアソフトボール大会埼玉県予

選」。川越寿限無は、松戸市で

行われる関東大会への出場を決

めました。意気込みを聞いたと

ころ「やるからには勝たないと

おもしろくないからね」と監督



の小林輝夫さん(73歳・小仙波

町五丁目)。

ソフトボ

ールをもつ

と楽しむた

めに、勝利を

目指している皆さんは、真剣な表情をしていました。

まちのできごと

川越市の面積は109.16km²

109パレット

大きく育てね

4月29日、ことして23回目を迎えた苗木配布が行われました。川越駅西口噴水広場では、市の花ヤマブキなど6種類、500本の苗木を用意。受け取った人は「毎回楽しみ」「大きく育てます」とうれしそうに話していました。中にはどれにしようかとしばらく迷う人も。市民の皆さんに大切に育てられ、成長した姿を見るのが今から楽しみです。



最初に並んだ方に苗木を手渡す舟橋市長

家族連れの皆さんに好評でした



新河岸川をゆったりと

5月1日、新河岸川観光舟運の実現に向けて、濯紫公園（喜多町）周辺で試験運航が行われました。午前11時から午後2時30分の間に、約1,000の方が乗船。乗船した皆さんからは「楽しかった」「もっと長く乗ってみたい」「舟から見た景色が新鮮だった」という声が寄せられました。通りかかった人も、興味深そうに舟の運航を見守っていました。

ミニバスで友情の懸け橋

新潟県中越地震で被災したミニバスケットボールチームに義援金を送る、募金活動の中心となった南古谷アクロスと川越エルフ。今回は南古谷アクロスが、長岡市の上川西ミニバスクラブから招待されました。5月14日・15日に、義援金を送った48チームのうち4チームと交流試合で対戦。地震に負けず元気に走り回る子どもたちと、コート上で交流を深めました。



小千谷スーパーソニックズと、試合会場にて撮影



南古谷アクロスから上川西ミニバスクラブ（右）に、激励の言葉を書いた色紙が手渡されました



「まちがえないで演奏できるときが、いちばんうれしい」と、元気に話す子どもたち。ことしの川越百万灯夏まつりでも、演奏する予定です。

子どもたちに、盆踊りの太鼓をたたいてもらおうと発足した、楽鼓の会。子どもたちが、民謡やポップス・ラテンなどの音楽に合わせて、太鼓をたたくのが特徴です。この演奏方法を始めたのは、「ジングルベル」に合わせて太鼓を演奏したことがきっかけです。月越小学校で毎週行われている練習では、威勢のいいかけ声と、太鼓の音が学校中に響きます。ほかの子の演奏中も、みんなで太鼓をたたきまねをして、体でリズムを覚えようとしていました。楽鼓の会は、市内の催しなどで、年間二十回以上の演奏を行っています。「緊張するけど楽しめ」



5月1日、伊佐沼公園で行われた「太鼓の響きINカワゴエ」

かわごえ川越ひと 14